

検証委員会現地調査記録

【調査日】平成29年5月15日（月）11:00～12:30

【場 所】那須高原ファミリースキー場

【内 容】事故当日の状況や動き等について

（参考人G及び各班講師から当日の行動について説明）

○ 参考人G

27日朝、7:20 くらいに参考人K、参考人Oと相談し、登山を中止し歩行訓練を行うこととした。7:30 集合で、10:00 くらいにテント撤収を始めるため、9:30 くらいに戻ることにした。

注意事項として、第2ゲレンデの上の方の斜面は危険であるため、行かないように参考人Kをはじめ講師に伝えた。生徒には参考人Kから説明してもらい、各班人員を確認して出発する形となった。

○ 参考人K

5時に起床。雪の状態は、積雪 15cm 程度。小雪がわずかに降っている程度。風はほとんどなかった。

6:15 から 6:30 に参考人G、参考人K、参考人Oの3人で本日の行動を確認、出発を 7:30 に遅らせた。

また、テント撤収に時間がかかることが予想されることから、2日目の講習でやったキックステップによる歩行技術の練習として、スキー場周辺での行動に変更した。

報道等では「ラッセル」となっているが、雪をかき分けて進むものではなく、自分たちで足跡をつけるという意味で「ラッセル」という言葉を使った。

7:30 に講師を集め、行動の変更、コースの説明。参考人Oからの注意事項として第2、3ゲレンデの奥、リフトの突き当たりのさらに奥は斜面が急で雪崩の危険があることから立ち入らないようにとのことがあったので、その説明をした。

講師打合せ後、生徒にも同様の説明を行った。

7:50 行動開始。前日の班別の行動とした。1班は、センターハウスからほぼ真っ直ぐ、横一列で足跡をつけて一本木を目指す。大高は体力があり、あっという間、10 分くらいで着いた。視界は一本木の先 10 から 20mだった。一番奥の斜面は見えなかった。一本木到着後休まず、縦一列になり樹林帯へ。大高の2年、1年、教諭A、参考人Kの順に進んだ。左側の尾根に出るように、尾根を登って行くことにした。しばらく道を探しながら小さい尾根を上がった。しばらくして生徒の一人が足をつりそうになり斜面のところで休憩を入れた。10 分程度休憩。

休憩後、出発してすぐに全員に雪の層と状態を確認させた。2日目の講習で行ったハンド

テスト、弱層テストの確認。その後、樹林帯を抜けて雪面に出たところで、一旦止まらせた。

その時の視界は、上は天狗の鼻、下はしばらく離れた3、4班が見える状態。視界は良かった。生徒からもう少し先に行きたいとの話があり、少し進んだ。

平らなところに出て、木のところで目印になるものがあつたので、そこで止めた。最初の予定ではそこまでと考えていたが、前の方にいた生徒がもう少し進みたいと言ったため、時間が早かったため、もう少し進むことにした。

角度が急になる斜面の手前で止まって、終わりにしようと言ったが、生徒からさらに進みたいと言われたため、雪の状態、斜面の角度からその時は大丈夫だろうと考え、岩の近くまで行って帰ることにした。

そこから少し進んだところで雪崩が発生。下を見て前を見たところ教諭Aとその前の生徒が頭をのけ反らせるような形で覆い被さるようなかたちで巻き込まれた。

斜面の下が頭になり、50cmくらい埋まった。顔は15cmくらい埋まった。右手が動かせたので、顔の雪を払った。背中に入っていた無線に連絡があつたが、何もできなかった。他の班の先生に掘り起こされた。近くにいたメンバーとすぐに生徒の救助活動に入ったが、肋骨5本、肺の損傷のため呼吸ができない状態になり、動けなくなったため、救助は他の先生にやっていただき、状況やメンバーを確認するなどした。その後搬送された。

○ 委員（樹林帯から雪崩が発生した斜面を撮影した写真を見せながら）

- 1 行ってはいけないとイメージしていたところに印を。
- 2 行動を矢印で。一本木まで①、横に移動したところ②、尾根を登って休憩したところ③、さらに上がったところ④、急な斜面になるところで、ここで終わりにしようとしたところ⑤
- 3 2班がいたところに印を
- 4 3、4班がいたところも同様に。

○ 参考人○

2班はたぶん最初に出発した。最初は縦一列で参考人○が最後尾。

一本木には1班の生徒1人が早く進んで、数人が続いていった。1班の先頭集団が先に一本木に到着した。新しい雪を踏むのが目的だったので、一本木の右上に着くようにした。そこから横になって新しい雪を踏むことにした。1班が尾根に着くのを確認したため、新しい雪を踏むため1班の1つ奥の尾根少し高くなっているに着くようにした。

随時目印がある木を目指して行くことにして、左の尾根沿いに上がった。体力差があり、先頭と後ろが離れたため、後ろの生徒より2人前位にいて、先頭の生徒に傾斜が変わる手前で待機するよう指示した。遅れた2人を待っていたとき下を見ていた。このとき、スキー場を歩いていたときより風が強いことから降りようと考え、風が当たらないところに行こうと考え、後続の2人が追いついてから、手前側に降りてきた。

真高のリーダーが先頭で、参考人Oが最後尾で進んだ。その際、一瞬であったが上部で1班が行動しているのを確認。下り始めて数m程度歩いたところ、右側面から雪が当たって右を見たときに、雪崩に巻き込まれた。数mから10mほど流されたと感じた。幸い座り込むような形で止まった。上半身が出ていたので、自力で脱出。振り返ると3、4班は少し高いところにいて人員の確認をしていた。

無線で参考人K、参考人Gを呼ぶが応答なし。2班の人員について参考人Pに確認してもらった。二転三転するが、全員確認できた。3、4班も確認できた。

沢筋に流され、第二波がくる可能性があったため、尾根筋に上がるよう指示。沢筋から尾根筋に上がった。反対の沢筋から声が聞こえた。声をかけたが、返事がなかった。この時、1班は歩き続けていて巻き込まれていないと判断していた。自力歩行できない生徒がいたため、いるメンバーで介助しながら下山するしかないと判断した。一人で尾根を少し降りてルートを確認した。ある程度見通しがたったところで戻ったところ、他の顧問が参考人Kを救出し、他の生徒を救出しているところを目撃した。5班の参考人Iが無線で異常を察知し、レストハウスへ退避行動をとっていると無線で分かった。そこで、参考人Iに救助要請を無線で連絡。

その後、1班の救助に加わり、ストックをゾンデ棒代わりに搜索した。そのうち、参考人Gと交信ができ、救助隊が入ったことなどの連絡、人員の確認などを行った。近くで待機していた教員に笛を吹くように指示。1班の人数、救出する人数を確認し、無線に連絡。救助隊到着前後に2人不明だったが、行方不明なしになった。かなり現場が混乱していた。

救出できた人数と救出している人数を確認し、行方不明なしを伝えた。尾根筋に上がって待機した。現場の状況が分かっているため残って、自力歩行できない生徒3名の最後と一緒に下山した。

○ 委員（樹林帯から雪崩が発生した斜面を撮影した写真を見せながら）

- 1 立ち入ってはいけないとイメージしていたところに印を。
- 2 行動を矢印で。一本木の右までのルートに①、上に移動したところ②、上がって止まったところまで（降りる判断をしたところ）③、降りた方向を④
- 3 1班がいたところに印を

○ 参考人J

ゲレンデでは横一列で進んだ。1班の歩いたコースとほぼ同じコースでかぶらないようにした。体力差があり、どんどん遅れた。1班が一本木から林に進入したところで休憩。体力面で不安があったため、1班の作った道を進んだ。

20分から30分くらいしてから平らなところで休憩した。その際時計は8:30だった。

4班もほぼ同じかたちで休憩したため、4班の先生とどの位進むか打合せをし、もう少し

登ってから降りることにした。その後5～10分してから雪崩に巻き込まれて流された。3班は比較的近くにいて、少し下ったところに4班がいた。人数確認し、無事を確認。同時に4班も無事の確認の連絡が無線であった。なるべく高いところへ移動（避難）させた。2班の真高の安否確認の連絡があり、捜索を行ったところ重傷者がいたため、3班へ連れて行き、温かい格好で待機させた。

1班が見つからないと連絡があり、登って左側の沢にいと連絡があったため、沢に下りて捜索した。参考人Kと生徒数名が救出された下を集中的に探したところで続々出てきた。あと2人見つからないというところで救助隊がきた。

○ 委員（樹林帯から雪崩が発生した斜面を撮影した写真を見せながら）

- 1 立ち入ってはいけないとイメージしていたところに印を。（青マーカー）
- 2 行動を矢印で。最初のルートに①、休憩して上に移動したところ②（1班の後を追う）、休憩したところ③、その後5分くらい登ったところを④
- 3 1班が見えたところに印を

○ 参考人P

集合は7:30。その時こちら（第2ゲレンデ奥）の方面には立ち入らないようにと説明があった。前日の段階でピッケルやスコップがないという生徒がいたため、装備の点検を行ってから出発したため、最後になった。

出発後は横一列で一本木まで上がった。最初はゆっくり上がっていたが、体力差があり、宇高はどんどん進み、矢板中央は少し遅れ、隊が間延びした。宇高に一本木で飲み物や体温調節を行わせ、待機させた。

3班のトレースが尾根に向かったので、それに向かった。宇高、先生、矢中の順に進んだが間延びした隊構成になった。急なところから平らになるところで、3班が休憩していた。

3班の3mくらい先で座れるスペースがあったため、宇高の生徒を止めて待機させ、矢板中央を待った。3班出発したとき、参考人Jとどの位進むか話した。参考人Mが通過したところで矢板中央の生徒が到着。

その後、人の声がしてそちらを見ると雪崩が起こった。トランシーバーで呼びかけたが赤いランプが点滅していたため、使えないと判断し、人員を確認し、4班の無事を把握した。

同じ標高のところに真高の生徒1人が動けないでいた。真高は上部におり、2つに分割された。真高の人数の情報をやりとりして確認。沢筋が危険であることから動けない真高生徒と高いところへ移動するよう指示があり、沢をはさんで反対側の尾根に上がった。誰かに手を貸してくださいと言われ、様子を見ると言ったさらに向こうの沢から手が出ている。3人ほど手が上がっていたので、近くの手のところに行った。参考人Kの足下をかき分け、自力で出てもらった。沢の上流に向かって行ったところ、木にぶつかって押しつけられている生徒がいて参考人Nと2人で助けた。

下の方にも行くと参考人Lが掘っていた。片足が埋まっている生徒、さらに下にもいて助けた。その後、近場を掘った。自身は朦朧としてきたため、レスキュー到着前後に横になった。レスキューが来るまで、教諭Aと生徒1人が見つからなかった。来てから1人息があるということで、集中して掘っていた。下山指示があって下山した。

○ 委員（樹林帯から雪崩が発生した斜面を撮影した写真を見せながら）

- 1 立ち入ってはいけないとイメージしていたところに印を。
- 2 行動を矢印で。最初のルートに①、トレースしたところ②（3班が通ったところ、1班と同じ、参考人Jと話したところ）

○ 参考人I

人数の関係で、顧問は1人ということもあり不安であったため、参考人Gに女子の行動を確認。女子は第1ゲレンデを歩けば良い訓練になるとアドバイスもらった。

男子は一本木を目指して進んでいくのが見えた。第1ゲレンデの斜面を登ることにした。

第1ゲレンデは雪が吹きだまる場所だったのか、雪も膝上まであった。交互に隊を真っ直ぐにしながら進み、第1ゲレンデを登り切ったところで休憩。その時間が8:00だったと思う。雪がかなりあったため、矢板東の女子はスマホで写真、真女の生徒のスマホは寒さで電源が入らず。10分くらい休憩した後、さらに奥まで行ってUターンし、一本木を目指した。

風が正面からあたる感じであり、雪が顔に当たり痛かった。その最中参考人Pだったと思うが、4班男子隊が樹林帯に上がりますと無線が入った。一本木に着いた時には、男子隊は見えなかった。まだ時間があったため、少し第2ゲレンデを上へ行ったが、女子の体力では厳しいため休憩。この時8:30だった。斜面で座って雑談をしながら休憩していたところ、参考人P（だったと思われる）から無線で雪崩れました、生徒が巻き込まれましたと連絡が入った。音もなく、雪煙もなかったが、参考人Oから生徒が巻き込まれたようだと言った無線が入った。二次災害のおそれがあったため、5班は急いで下山して、テントで待機するよう指示した。一本木過ぎまで見送って、そこから戻ってヘルプに向かうことにしたが、場所が確認できない上、無線もつながらなかったため、迷ったが下りてセンターハウスへ。参考人Oに無線でセンターハウスについたと連絡。本部に無線を入れたが応答なし。歩いて本部へ行き、緊急要請をしてくれと参考人Oから連絡があり、本部に向かった。

おおたかに着いたのは9:15頃。車に荷物を積んでいる参考人Gに会えたので連絡し、警察、消防に連絡してもらった。

○ 委員（樹林帯から雪崩が発生した斜面を撮影した写真を見せながら）

- 1 立ち入ってはいけないとイメージしていたところに印を。第2、3ゲレンデの上部。
- 2 行動を矢印で。

○ 参考人Z

連絡を受けたのは9:40前後。10:30頃到着。隊長から説明を受けて向かおうとしたが、雪が膝上まであり、圧雪車でロッジから一本木まで圧雪してもらい現地に向かった。当時はかなりの吹雪で、視界が悪く20から30m。上に行くほど強くなった。笛を吹いたが風に流されて聞こえなかったようだ。笛の音も届かなかった。足跡も全部消えていた。

山に入ったのは、救助隊2名、警察4名、消防3名。

たまたま10mくらい先で人が手を振っているのが見えた。2、3人埋もれているのが見えた。顔やスパッツが出ていることで確認できた。掘り起こしていたところ、うめき声が聞こえた。2、3人は血の気がなかった。揺り動かしても反応なかった。うめき声の方の掘削作業を始めた。話しかけたが返答はなかった。掘っていたら上から足が見えた。

眠りそうだったので、ほほをたたいて、声かけをずっとした。ブルーシートにくるんで、まずはこの人を最初に下ろそうということになった。3人くらいを掘り起こす作業をしていたところ、8人とも発見した。ほかにいないか消防と確認。負傷者は歩けない人から下ろした。センターハウスに下りたところ消防15、16名、自衛隊15、16名いた。